

# 隠岐圏域(農業)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準: 100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率					達成状況
			項目名	H24目標	H24実績	単位	達成率	
共地 -3	隠岐産品のブランド力強化に向けた6次産業化の推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期では新たなプロジェクトのスタートにあたり、ブランド協議会で今後の商品開発や販路拡大に向けて、課題の共有・意識の統一を改めて行った。これにより、課題の共有が図られプロジェクトが効率的に進む体制が図られた。</li> <li>・後期においては、隠岐物産展(=隠岐フェアin物産館)や各種販売促進の取り組みを通じて、新たな販売先の開拓につなげている。</li> <li>・一方、隠岐の島町では、ブランド化や加工施設の整備に向けた協議会が設立され、議論が始まった。この動きは、隠岐の島町の産品振興を図るためにも核となる組織であり、今後の議論が期待されることである。</li> <li>・また、隠岐スモールビジネス協議会の会員が増えており、今後の組織的な活動に大きく寄与するものである。</li> </ul>	隠岐スモールビジネス協議会員の取り引き先数1社あたり	45	54	件	120%	達成
			品質の規格化が図られた商品数	0	0	件	—	—
			島根県物産観光館で定番化した隠岐産商品数	45	46	件	102%	達成
隠岐 -1	隠岐の水田農業担い手育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手育成については、各町村において人・農地プランの検討が行われ、今後集落レベルの話し合いが活発化する予定。新規設立の「(農)都万営農」の農業経営が順調に行われ、他集落への波及が期待される。</li> <li>・こだわり米の既存販路確保、新規生産者の確保、品質向上等の成果があった。また、新たな業者からの引き合いもあり、販路開拓とともに生産拡大が期待される。</li> <li>・既存転作作物では、次年度に向けて、ソバ新品種の試験、白小豆の低収量要因の解明、WCS用稲の生産・流通システムの確立が順調に行われ、次年度の成果が期待できる。</li> <li>・新規作目においては、トルコギキョウ、黒大豆枝豆の試験栽培・販売が行われ、次年度も定着に向けた取組が行われる。</li> </ul>	集落営農法人数	3	3.0	組織	100%	達成
			こだわり米のJA集荷量	120	74	t	61%	未達成
			白小豆のJA集荷量	5.5	5.7	t	104%	達成
			新規品目の定着	試験栽培	試験栽培2品目	品目	100%	達成
隠岐 -2	隠岐牛産地拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の生産性向上について、事故低減のための対策会議、研修会で管理の徹底を指導したことで、農家の意識改革が図られた。優良な子牛生産のため受精卵移植を行うことで繁殖雌牛の能力向上が期待できる。</li> <li>・各町村では、町有牛の活用など、育種価(脂肪交雑)向上のための雌牛整備を行うほか、子牛市場においての調査結果を活用した生産性の向上を図った。</li> <li>・飼料の生産基盤について、放牧の活用推進として、公共牧場の整備、牧柵の補修や雑灌木の除去を行い、放牧活用による省力化を推進するとともに、水田を活用した、飼料用米、稲WCSの推進活動を通して耕畜連携の推進を行い、利用する畜産農家を確保した。</li> <li>・「隠岐牛」産地確立対策について、島前・島後地域の意見を集約して、地域団体商標登録の申請を行ったほか、全共9区(肥育区)の県代表に隠岐地域からの出品が決定した。肥育牛の増頭対策として、事業及び資金の導入を行った。</li> </ul>	肥育牛の出荷頭数	144	149	頭	103%	達成
			子牛出荷頭数	1,150	1,133	頭	99%	概ね達成
			脂肪交雑育種価	1.00	1.02		102%	達成
			飼料米・稲WCS利用農家戸数	3	9	戸	300%	達成
隠岐 -3	隠岐の地産地消拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の生産拡大、魅力ある新規品目の導入についてはおおむね目標を達成している。</li> <li>・集荷・流通システムの構築のうち新規直売所への供給体制整備については、生産者組織も結成され、徐々に栽培が拡大している。隠岐の島町では販売拡大に向け集荷体制の整備が必要であり、関係機関と連携し具体的な検討を進めている。</li> <li>・学校給食、福祉施設等への供給拡大については、学校給食への供給はほぼ計画どおり行われているが、今後、食材提供品目の選定・方法等について検討を行う必要がある。</li> </ul>	地産地消拠点施設販売額	5,000	6,211	万円	124%	達成
			新規品目数(加工品を含む・/年)	4	4	品目	100%	達成
			学校給食・福祉施設等への食材提供箇所数	5	4	箇所	80%	概ね達成